

諸室の配置【1階】

- ・北側に校長室や職員室などの管理諸室と、地域学校協働活動室、用務員・警備員、教育相談室、保健室、特別支援教室を配置し、東側に給食室を配置します。
- ・南側の中央に学童クラブと(仮称)地区交流センター、西側に体育館を配置します。

(安全性)
■校長室、職員室、事務室、用務員・警備員室、保健室

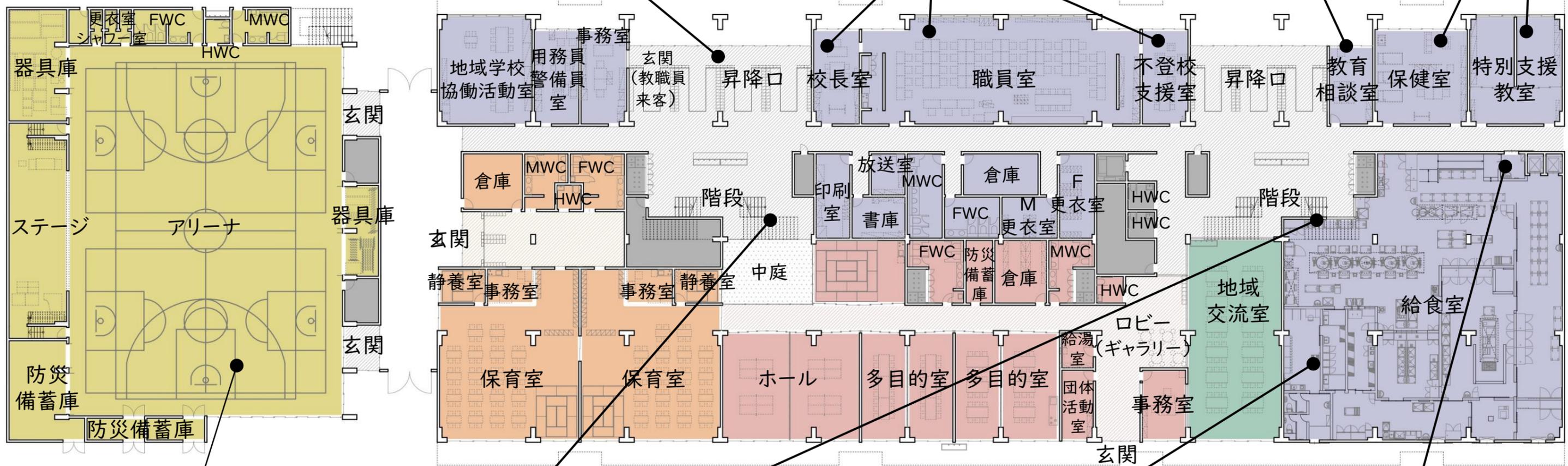
校庭への視認性及び校庭へのアクセスを考慮し、校庭に面した北側に配置します。

(快適性)
■昇降口
 混雑を緩和するため、校庭側に2か所に分散して配置します。

(学習環境への適応性)
■校長室、職員室、不登校支援室
 それぞれに連携をはかるため、隣接して配置します。

(快適性)
■保健室・特別支援教室
 養護教諭が特別支援コーディネーターを兼ねる場合が多いことを考慮し、連携をとりやすいよう隣接して配置します。

(学習環境への適応性)
■教育相談室
 児童のプライバシーに配慮し、他の諸室から離れた配置とします。



(快適性)
■体育館
 アリーナの広さは、バスケットコート1面分、ミニバスケットコート2面分を確保できる広さです。
 式典などの際に、全児童が着席可能な広さです。

(快適性)
■階段
 昇降口に近接して配置します。

(学習環境への適応性)
■給食室内見学用窓
 食育のために、児童が調理の様子をみられるように窓を配置します。

(安全性)
■給食室
 衛生面に配慮し、トイレから離れた位置にするとともに、安全性に配慮し、「学校給食衛生管理基準」(文部科学省)に基づき、汚染作業区域と非汚染作業区域を明確に区分けします。

(安全性)
■配膳室
 各階に配膳室を設け、給食配膳の時間まで鍵付きの部屋で給食を保管します。

(地区交流活動への適応性)

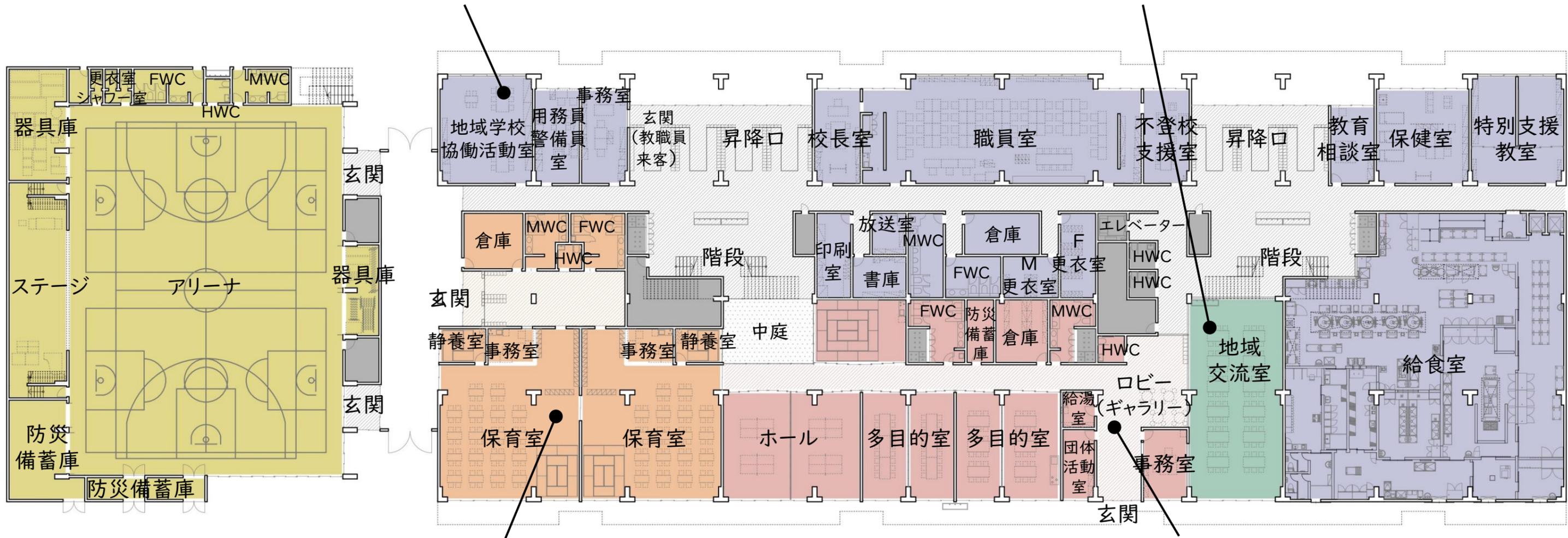
■地域学校協働活動室

地域教育コーディネーター、地域住民等のボランティア、放課後こども教室、PTAなどの活動する事務室として、教職員との連携がしやすい位置に配置します。

(地区交流活動への適応性)

■地域交流室

児童と(仮称)地区交流センターの利用者が交流する場として、学校と(仮称)地区交流センターの双方から行き来しやすい配置とします。
学校の1室として、学年集会や児童の発表、交流の場など多様な学習に活用するとともに、学校教育に支障のない範囲で地域開放します。



(学習環境への適応性)

■学童クラブ

二つの学童クラブを隣接して配置し、玄関、トイレ、倉庫は共用します。
事務室から保育室内が見通せる配置とします。
近隣のさわやか館内の学童クラブは、当面の間継続使用する想定です。

(地区交流活動への適応性)

■(仮称)地区交流センター

ロビーにギャラリーやテーブル、イスなどを設け、地域住民などが交流できるような造りとし、一部多目的室にキッチンなども設けます。

諸室の配置【2階】

- ・中央部に特別教室、東側、西側に1学年ずつ普通教室と多目的教室を配置します。
- ・特別教室の中心に学校図書館を配置します。
- ・多目的教室2室は、普通教室への転用が可能な教室です。

普通教室とオープンスペース
 8室(2学年分)

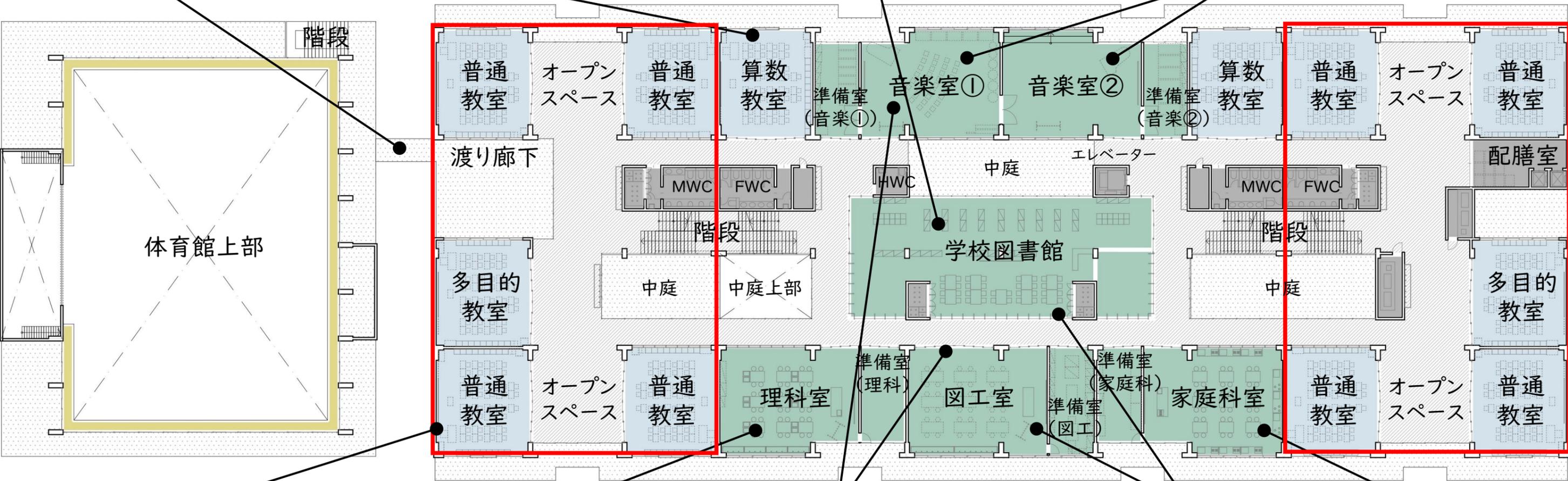
多目的教室
 2室

(快適性)
■体育館通路
 校舎の2階から直接体育館に移動できる通路を設けます。

(学習環境への適応性)
■算数教室
 習熟度別学習に対応できるように、普通教室に近接して配置します。

(学習環境への適応性)
■学校図書館
 学校図書館を学校の中心に、全学年の児童がアクセスしやすい配置とします。学校図書館の周りに特別教室を配置し、一体的な学習空間とします。

(快適性)
■音楽室
 低学年用と高学年用の2室を設け、それぞれの準備室内の楽器を共用するため、2室を隣接して配置します。演奏会時の楽器の運搬を考慮し、エレベーターに近接して配置します。



(学習環境への適応性)
■普通教室とオープンスペース
 学年ごとに4教室から5教室のまとまり(学年クラスター)を意識した配置とします。

(安全性)
■理科室
 薬品等は鍵付きの棚で保管します。

(周辺環境への適応性)
■騒音への配慮
 音の出やすい音楽室や図工室を建物の中央部に配置し、敷地境界に近い建物の西側と東側に極力開口部を設けないことで、騒音に配慮します。

(学習環境への適応性)
■図工室
 室内や周囲に作品棚を配置します。

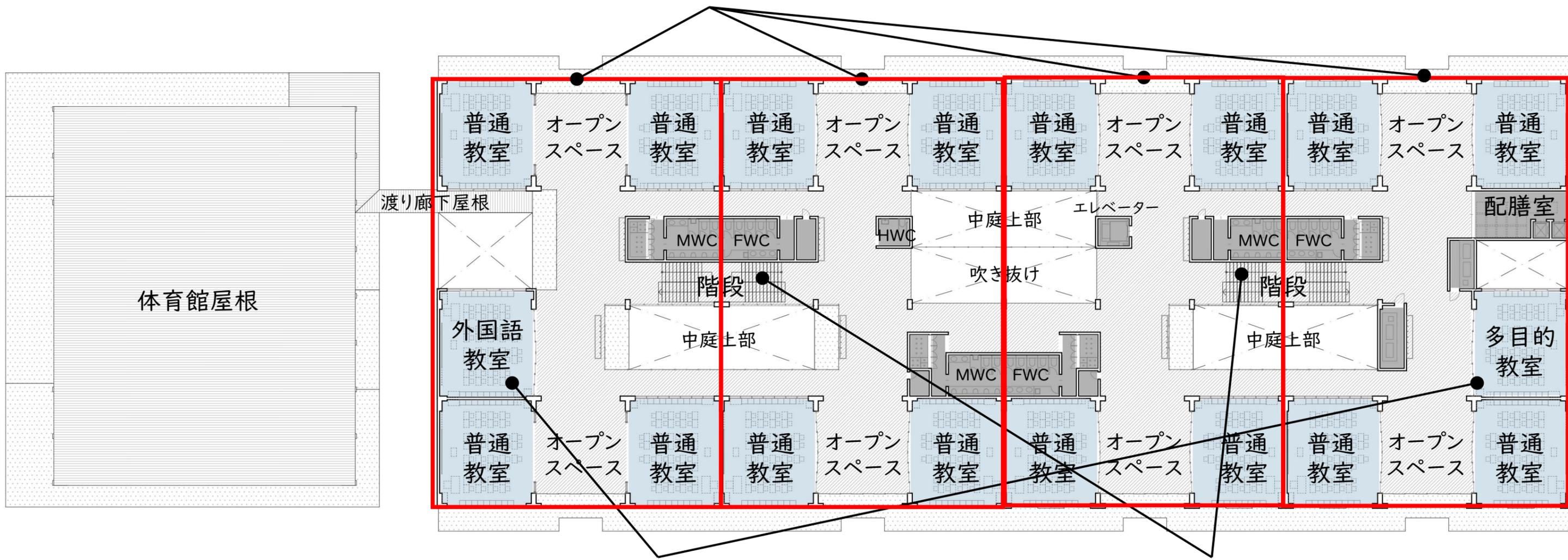
(安全性)
■家庭科室
 包丁等は鍵付きの棚で保管します。

諸室の配置【3階】

- ・4学年分の普通教室、外国語教室1室と多目的教室1室を配置します。
- ・外国語教室と多目的教室は、普通教室への転用が可能な教室です。

- 普通教室とオープンスペース
16室(4学年分)
- 外国語教室
1室
- 多目的教室
1室

(学習環境への適応性)
 ■普通教室とオープンスペース
 学年ごとに4教室から5教室のまとまり(学年クラスター)を意識した配置とします。



(可変性)
 ■クラス数の変動
 外国語教室1室と多目的教室1室は、各学年クラスターに分散配置し、クラス数の変動に対応しやすい配置とします。

(快適性)
 ■階段
 他の学年クラスターを通らなくても、昇降口、特別教室、職員室等と行き来ができる形状とします。

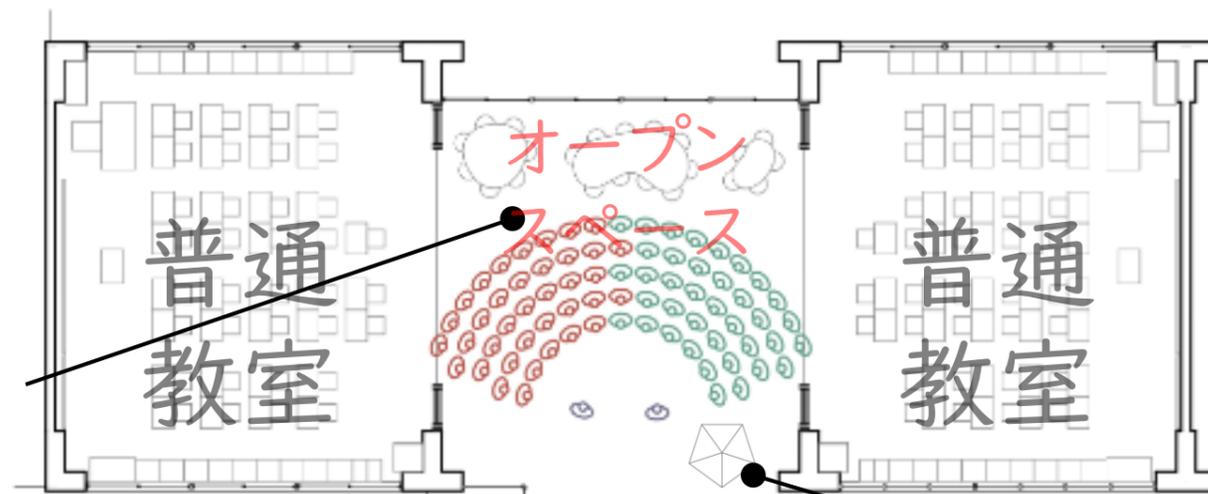
■対面する教室配置

2教室がオープンスペースを挟んで対面する配置です。

教室とオープンスペースは、一体として利用出来る大きな空間です。

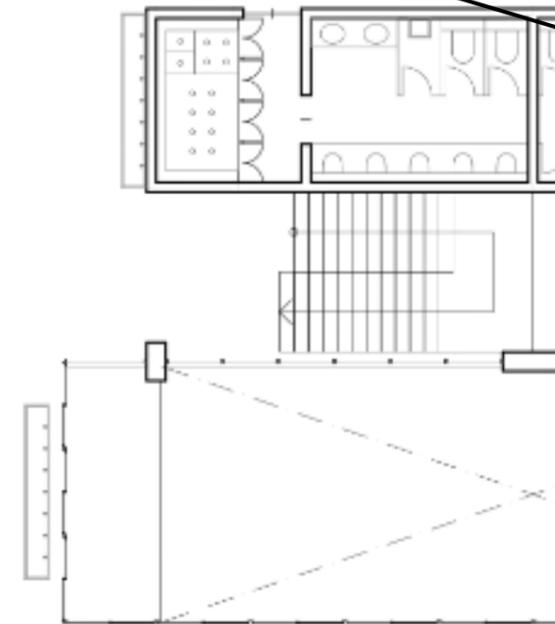
少人数学習、グループ学習、合同授業や学年集会に利用します。

お互いの教室が見えやすく、教職員同士が日常的に連携・協力しやすい形状です。



■クールダウンスペース

教職員の目が届きやすく、児童が教室の様子も感じながら落ち着きを取り戻すことができるように、オープンスペース内に折り畳み式のテントや可動式のパーテーションなどでクールダウンスペースを設けます。

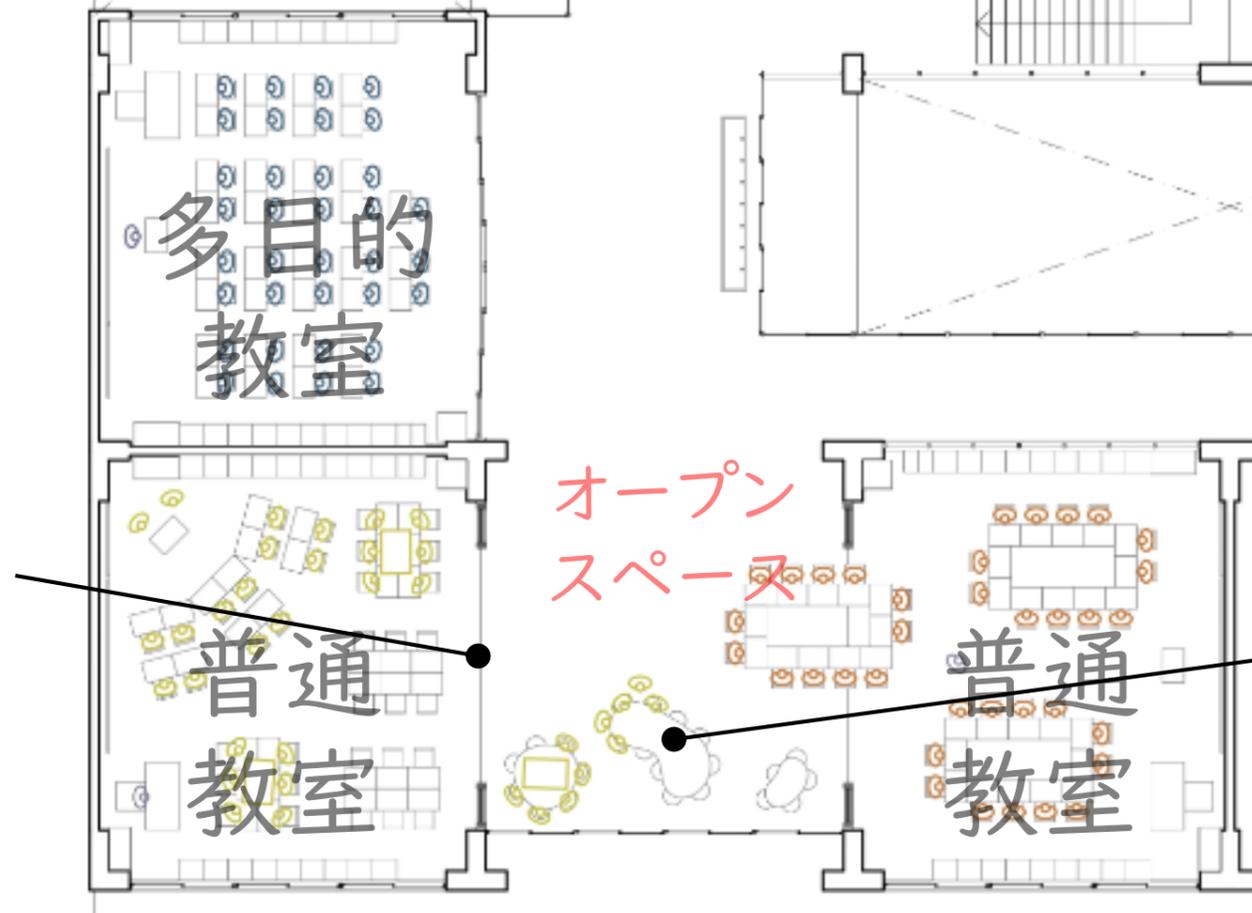


■児童の集中力の持続

教室とオープンスペースの間は可動間仕切りとします。

可動間仕切りを閉めることで、個室としての環境を作ることができます。

オープンスペース内に、音や視線を遮るカーテンや、可動家具などを配置します。

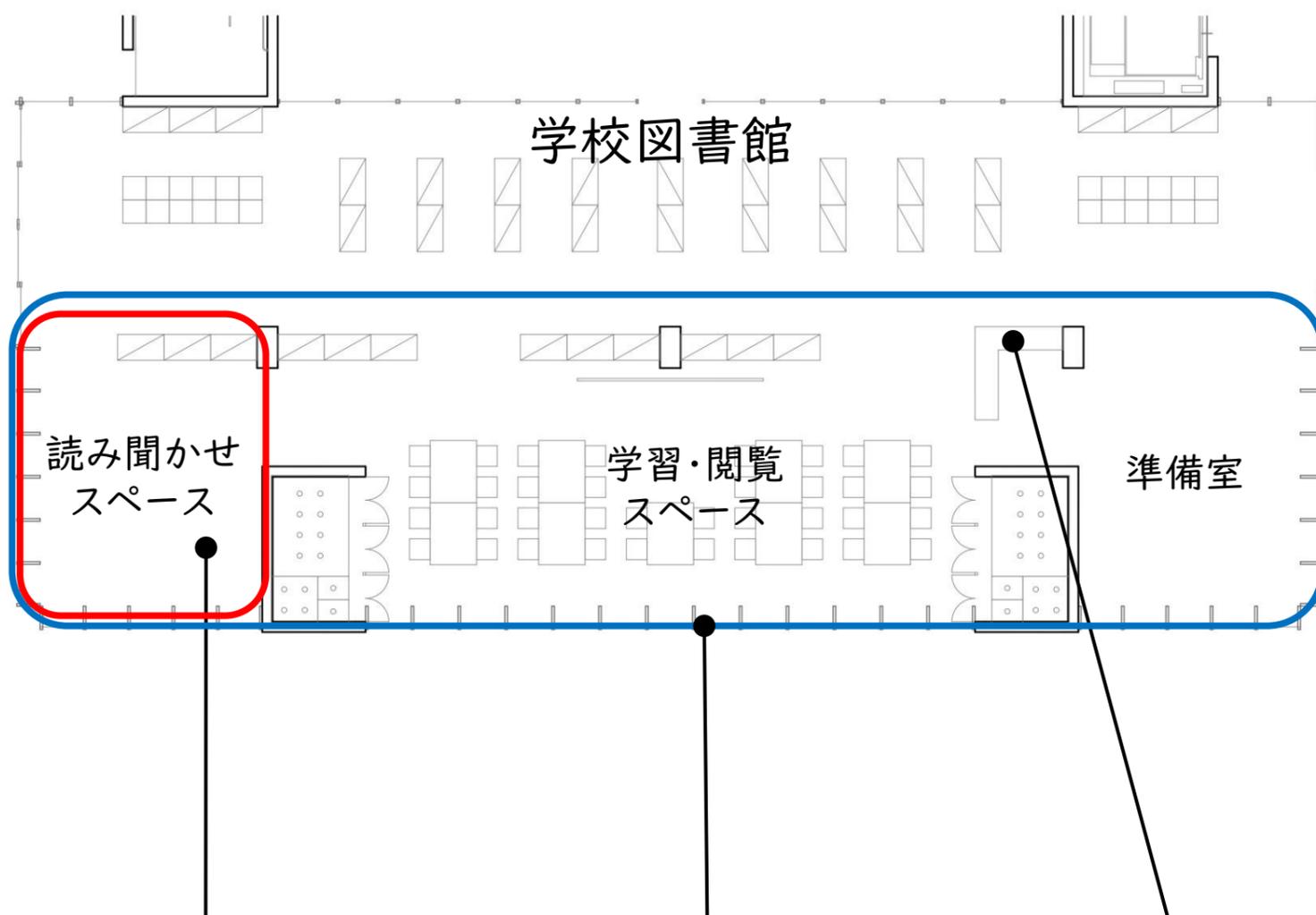


■多様な学習活動

テーブルやイス、可動家具などを配置し、多様な学習活動に柔軟に対応できるようにします。

新しい時代の学び【ラーニングコモンズ】

- ・ICTが活用できるようにアクセスポイントを整備し、1クラスの児童が集まることができる机とイスを配置した学習・閲覧スペースを設けることで、調べ学習や対話、発表をしながら学習を展開できるラーニングコモンズとして整備します。
- ・読み聞かせスペースと学習・閲覧スペースはそれぞれ、1クラス35人が利用できる広さとします。
- ・各スペースを本棚などで緩やかにエリア分けし、行き来しやすく、学習しやすい空間とします。
- ・蔵書は最大28クラスを想定し、約12,000冊を保管できるようにします。
- ・学校図書館は地域開放します。なお、学校図書館の図書の貸し出しや、市立図書館への本の返却は行いません。



- ラーニングコモンズの3つの機能
- (1) 読書センター機能
 - ・児童の読書活動や児童への読書指導の場
 - (2) 学習センター機能
 - ・児童の様々な学習を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする場
 - (3) 情報センター機能
 - ・児童や教職員の情報ニーズに対応したり、児童の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする場

■読み聞かせスペース

靴を脱いでくつろぐことが出来るような作りとします。

■落ち着いた空間

読み聞かせスペースや学習・閲覧スペース、準備室など落ち着いた空間とします。

■受付カウンター

全体を見渡せるように配置します。

新しい時代の学び【職員室】

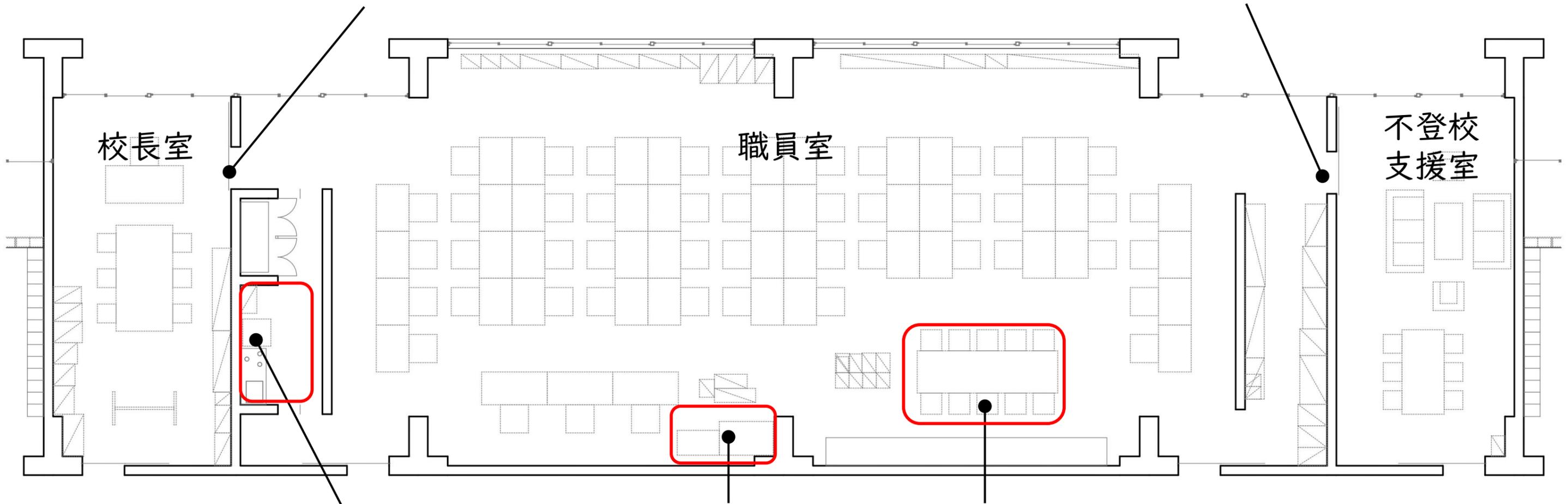
- ・最大28クラスを想定し、教職員（非常勤講師を含む）60人が利用することを想定し、机とイスを46席用意します。（一部の机とイスは兼用で使用する想定です。）
- ・10人程度で利用できる多目的スペース、印刷スペース、給湯スペースを設けます。
- ・フリーアクセスフロアとします。

■校長、教職員の連携

校長先生と教職員が相互に連携をとりやすいよう、校長室と職員室の間に行き来できる出入口を設けます。

■不登校児童の支援

教職員が不登校の児童を支援しやすいよう、不登校支援室に直接入ることが出来る出入口を設けます。



■給湯スペース

■印刷スペース

■多目的スペース

教職員同士の打合せや教材作成、休憩などに活用できるスペースを設けます。